

ご使用上の注意

施工される人への危害を未然に防止するためと、ご使用になる人や他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、この説明書をよくお読み下さい。

- 暖房器具などから発生する熱風、熱気が直接当たらないようにして下さい。扉の反り、変色などの原因になります。
- 扉に粘着テープでポスターなどを貼らないで下さい。表面が傷む恐れがあります。
- 製品に水、油、殺虫剤などが付着しないようにして下さい。材質の特性により表面がふくれたり、染み、変色などが発生する恐れがあります。
- 扉の開閉にあたっては、丁番側の隙間に手を置かないで下さい。指を挟んでケガの恐れがあります。特にお子様にはご注意ください。
- 扉の開閉にあたっては、必ず引手を持って操作して下さい。引手から手を離したり、扉の先端に手を置くと、扉が急に閉まったとき、扉と枠の間で指を挟み、思わぬケガをする恐れがあります。特にお子様にはご注意ください。
- 扉を開け放した状態にするときは、ドアストッパーなどをお使い下さい。強い風などで、勢いよく閉まることがあり、ぶつかったり、ガラス割れなどと思わぬケガをする恐れがあります。
- 安全のため、破損・変形した扉は、使用しないで下さい。

- 点検・お手入れについて
- 1. 日常のお手入れは乾いた柔らかい布または化学繊維で拭き取して下さい。ひどい汚れまたは落ちにくい汚れは中性洗剤を薄めて固く絞った雑巾で拭き取して下さい。汚れがひどい場合でも酸性・アルカリ性の洗剤、溶剤（シンナー・ベンジン）などは絶対に使用しないで下さい。
- 2. 虫害を発見された場合は、直ちに殺虫や防虫処理をして下さい。外部から入ったことも考えられますので放置すると虫害が拡大する恐れがあります。
- 3. 建付け調整は必ず手回しドライバーを使用して下さい。電動ドライバーを使用した場合は、ビス頭が壊れる恐れがあります。
- 4. 扉の調整で丁番固定用ビスを緩めた場合は調整後必ず締め付け、ガタツキが無いことを確認して下さい。脱落の原因になる恐れがあります。
- 5. ドアが傾いたり、ガタついている時は、丁番固定用ビスを締め直して下さい。
- 6. 使用中に異常を感じたり不具合が生じたときは、取付部分などの状況を確認して下さい。ご自分で対処できない場合には、施工業者様にご連絡またはご相談して下さい。

- 施工上の注意
- ① 造作材・建具枠の下地材には、必ず乾燥材（含水率19%以下）を使用し、湿潤材（グリーン材）は、使用しないで下さい。壁内の通気が悪く、内部結露が発生する恐れがある場合は、防水処理をしてから施工して下さい。
- ② 枠の組立て後、ねじれ・引っ張りなど無理な力を加えないで下さい。破損の原因になります。
- ③ 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ず隙間を作り、かい木を入れて下さい。かい木には、合板等の乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないで下さい。造作材・建具枠をコンクリートやモルタル（床面）に直付けしないで下さい。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に必ず防水処理をして下さい。
- ④ 養生シートをかぶせる場合は、粘着テープ等を化粧面に貼らないで下さい。剥がす際に表面が損傷する恐れがあります。
- ⑤ 発熱体付近には取り付けしないで下さい。熱により、部品が変形する恐れがあります。

マークの見方

- ① この表示の欄は「被害を免れることが想定されるか、または被害の発生が想定される色、損傷の程度です。」
- ② この表示の欄は「してはいけない禁止」内容です。
- ③ この表示の欄は「必ず実施して頂く」指示内容です。

お客様へのお願い

弊社では、お施主様が製品を安全に正しくご使用頂くためのお問い合わせやお手入れ方法などの重要な内容をこの施工説明書に記載しております。施工後は、必ずお施主様に手渡しして頂きますようお願いいたします。

はじめに

この施工説明書は「扉吊り込み時」にも使用しますので、大切に保管して下さい

※荷物が到着いたしましたら、直ちにキズの有無を確認してください。 運送中に発生したキズ等がございましたら、運送業者から事故証明をとり、商品に添えて仕入先へお申し出ください。

※製造上の問題があれば、施工前に仕入先へお申し出ください。 《施工後は当社では責任を負いかねます。》

枠同梱部品表(組立前に必ずご確認ください。

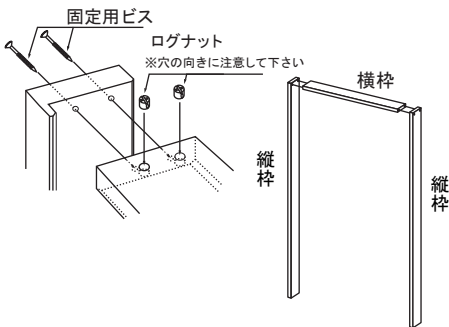
尚、同梱の部品には扉取り付け用部品もありますので、扉取り付けまで大切に保管してください。

	縦枠	下枠	下レール	上枠	上レール	下レール 固定ビス	上レール 固定ビス	枠組立・ 取付ビス	ガイド ボット	吊車	上部 ストッパー	下部 ストッパー	打込パイプ	ビス隠し キャップ	ログナット	治具
								7尺 8尺						7尺 8尺		
1折	2	1	1	1	1	3	3	16 18	2	2	1	1	1	8 10	8	1
2折	2	1	1	1	1	5	6	16 18	4	4	2	2	1	8 10	8	1
3折	2	1	1	1	1	7	9	16 18	6	6	2	2	1	8 10	8	1
4折	2	1	1	1	1	9	11	16 18	8	8	2	2	1	8 10	8	1

■施工手順

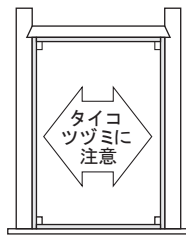
1 枠組み立て

下図に従い縦枠と横枠を固定し、フレームをつくります。
縦枠と横枠の固定は下図の要領にて 固定して下さい。

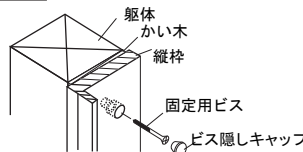


2 枠の取り付け

固定用ビスで固定し、ビス隠しキャップをはめ込みます。

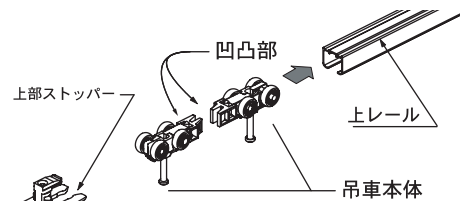


フレームを柱間に入れます。※さげふり・水準器を用いて、水平垂直を出し、ねじれ等がないことを確認しながら、縦枠の取り付け用穴へ固定用ビスで固定してください。



3 枠用部品の取り付け

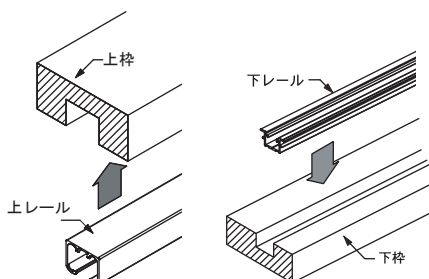
吊車本体と上部ストッパーの取り付け
・吊車本体の凹凸が合うようにレールの中へ挿入してください。
(レール取り付け後は入りません)
・ストッパーを固定する位置を確認して挿入してください。



注意：
吊車本体の向きを間違えると走行不良が起きたり、吊り元固定ストッパーが取り付けなくなります。

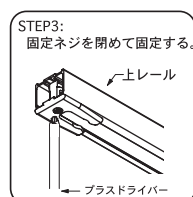
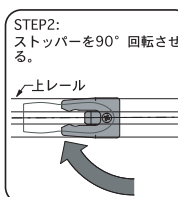
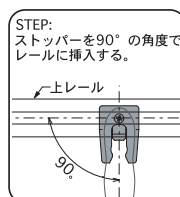
4 レールの取り付け

・レールを枠へビス固定します。

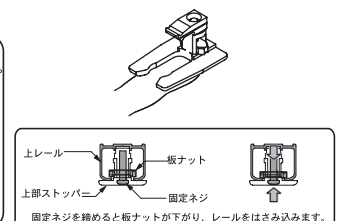


5 上部ストッパーの取り付け（後付けする場合）

・レール取り付け後、上部ストッパーを取り付ける場合固定ネジを緩めた後、指でビスを押さえながらレールより90° 角度で挿入し回転させ取り付けます。



指で固定ネジを押さえる。



注意：
固定ネジを締め過ぎないでください。電気ドライバーを使用しないでください。

6 扉用部品の取り付け

ガイドピボットの取り付け

ガイドピボットを押し込み、打込みパイプの上から打込みます。

打込みパイプ

《注意》
ガイドピボットを取り付ける時はカナヅチ等で直接打込むと破損の原因になりますので、必ず専用の打込みパイプを使用して下さい。

7 扉の吊り込み

ガイドピボットを下レールに落とし込む
ガイドピボットを下レールに落とし込んでください。

扉
ガイドピボット
落とし込む
下レール

《注意》ガイドピボットが下レールに確実に入っていることを確認してください。

8 吊車本体の凹凸を合わせる

上レール内にある吊車本体の凹凸に合わせてください。

上レール
合わせる
凹凸部
吊車本体

9 吊車本体をはさみ込んで扉を取り付ける

上レール内で凹凸を合わせた吊車本体にブラケットを合わせ、はさみ込みます。

STEP1:
吊車本体をはさむ。

上レール
吊車本体
ブラケット

STEP2:
ブラケットと吊車を取付ける。

注意
扉が確実に取り付けいたことを必ず確認する。
確実に取り付けいていないと、扉が落下し、ケガをする原因となります。

扉のはずしかた

STEP1
扉を閉じる。

STEP2
①のロックレバーを下げ、扉を室内側方向になめ下に扉を引き抜く。

①ロックレバー
下げる
扉を抜く

10 吊り元の固定方法

①ガイドピボットピンをしっかりと下ストッパーにはめ込みます。

下ストッパー
扉
下レール

②上ローラーを固定ネジで固定する
戸車を上部ストッパーにしっかりと
はめ込んでください。
戸車の固定ネジを締め付けると
完全に固定することができます。

固定ネジ
上部ストッパー
扉
上ローラー
ブラケット

1 扉の調整

扉の上下調整

「外側」シール下部の上下調整ビスをプラスドライバーで回して上下調整してください。
(±2mmまで調整できます) 時計回りに回すと扉が上がります。
反時計回りに回すと扉が下がります。

プラスドライバー
吊車本体
上レール

注意:
扉の上下調整の際は必ず扉を
持ち上げながら行なってください。

2 ストッパーの位置の微調整

扉が上下同時に固定されるように、ストッパーの位置を微調整してください。

上レール
上部ストッパー
縦棒
治具
5mm
プラスドライバー

注意: 固定位置が上下でずれるとストッパーのキャッチ力が弱まります。

